

タントクルだがしや楽校：山形県東根市発

取材日：2011年11月20日（日）

場 所：さくらんぼタントクルセンター

山形県のほぼ中央に位置する東根市は、サクランボの産地であり、山形の空の玄関・山形空港もあります。山形新幹線・新庄駅延伸により開設されたさくらんぼ東根駅周囲の都市化は目を見張るものがあり、山形県でも唯一人口が増加しています。

“さくらんぼタントクルセンター”は、その一角にあります、「子育てするなら東根市」というキャッチフレーズを象徴する総合保健福祉施設です。特に“けやきホール”は大評判で、遠く県外からも大勢の親子が遊びに来ます。

この“さくらんぼタントクルセンター”を運営しているNPO法人“クリエイトひがしね”も“子育て健康部会”を設けており、子育て事業には、特に力を注いでいます。

NPO法人“クリエイトひがしね”が初めて“タントクルだがしや楽校”を開いたのは2007年でした。私はこの時も取材・見学しており、“クリエイトひがしね”の人たちとの交流をさらに深めました。

ある意味、私は当時から“だがしや楽校”普及活動を展開していたようなものです。なぜならそれが、今日（こんにち）の“タントクルだがしや楽校”へつながっていると思っているからです。

2007年の“タントクルだがしや楽校”は2回開催されましたが、いずれも多くの子どもたち・親子連れが集まり、大にぎわいとなりました。大成功です。

しかし、これは一時的なイベント型の“だがしや楽校”でした。日常の中での子育て支援を目指している“クリエイトひがしね”では、2回の“タントクルだがしや楽校”を踏まえ、私（山口）が“だがしや楽校”とは本来「日常の中に見られる風景である」ことをご紹介したこともあり、「小さくても良いので、無理せず、毎月1回、継続的に開催するという日常的な“だがしや楽校”」を検討します。

こうして、あらためてスタートしたのが今日（こんにち）の“タントクルだがしや楽校”です。

“タントクルだがしや楽校”は、毎月第3日曜日の午前10時からお昼まで開かれます。

場所は“けやきホール”に向かう通路の一角です。畳が敷かれ、寝っ転がるにも最高で、“だがしや楽校”にはピッタリの場所です。絵本なども置かれています。

今年度（平成23年度）は5月からですが、毎月欠かさず開いています。

NPO法人“クリエイトひがしね”には常日頃からお世話になっており、“さくらんぼタントクルセンター”にも何度もお邪魔しては、活動の様子をお聞きしていました。

しかし、今日（こんにち）の“タントクルだがしや楽校”については、以前からジックリ拝見したいと思っていたものの、ほかの“だがしや楽校”と重なるなどして、これまでなかなか観ることができませんでした。

これは、いけませんね。実際の様子を観ていないで、“タントクルだがしや楽校”をご紹介することなど出来ないからです。

それで、今年（2011年）の7月、山形市から“さくらんぼタントクルセンター”へ足を伸ばしたのですが、観ることができたのは、後半の僅かな時間だけでした。

ということで、この日初めて、“タントクルだがしや楽校”をゆっくり拝見することができました。ようやく念願が叶いました。



2011年11月20日（日曜日）未明雨時々強く降る 曇り一時日差す のち時々雨

【タントクルだがしや楽校】

午前10時を過ぎたばかりなのに、多くの子どもたちが遊んでいました。

子どもたちといっしょに遊んでいるスタッフのSさん（クリエイトひがしね・子育て健康部会）は、私を見つけますと、挨拶します。そして「“タントクルだがしや楽校”は評判になっており、皆さんに喜ばれています」と話してくださいました。

まずは、この日の“タントクルだがしや楽校”の模様を写真でご紹介しましょう。

コマ遊びでは、はじめは出来なかった男のお子さんが、Sさんの教えで回すことが出来るようになって喜んでいる様子に、私も思わず「やったね」と声をかけました。



“おはじき”の名の通り、指で“おはじき”をはじいて、たくさん“おはじき”を取った方が勝ちという本当の“おはじき”遊びをしています。スタッフの人たちは、子どもたちに遊び方を教えながらも、子どもたちと真っ向勝負です。

“おはじき”で花の絵を描くお子さんもいました。これこが、子どもの自由な発想です。

竹の棒を使った遊びは、私も小さい頃、遊んだことがあります。数本の竹の棒を手の甲に乗せます。「これが出来ない人が多くなりました」というSさんの説明に、私も驚きました。その竹の棒を同じ向きにして置くと1本もらえます。多く取った方が勝ちです。ただ、残り3本になったら、竹とんぼにして、竹の棒1本を飛ばし、それをキャッチする、という遊び方は、この日初めてみました。所変われば、遊びも変わります。



Sさんのお手玉の妙技に見入る子どもたち。けん玉上手なおかあさん。

ゴム縄を使った遊びも初めてみました。ちょっと考えながらジャンプする遊びは、身体だけでなく、頭も使います。



“おはじき”にすっかりはまってしまった子どもたちは、この日の“タントクルだがしや楽校”が終わるまで遊び続けました。

新聞紙で作る紙鉄砲も大人気です。これは私も子どもの頃遊んだ記憶があります。思いっきり手を振りますと、バン！という大きな音を立てます。「やった～！」と喜ぶ子どもたち。良い表情です。



この日の“タントクルだがしや楽校”がまもなくお終い、という時、一組の家族連れが来られました。おかあさんと子ども2人です。

おかあさん：「そろそろおしまいですか？」

Sさん：「そうなんです。もう少し早く来られると良かったのですが・・・」

おかあさん：「福島から来たんです」

Sさん：「じゃあ、みんなで紙鉄砲を作りましょう」と言って、片付けようとしていた新聞紙を再び広げて、紙鉄砲作りを始めます。おかあさんと1人のお子さんは、Sさんの作る様子を見ながら、紙鉄砲を作ります。

Sさん：（もう1人の小さなお子さんへ）「新聞紙でウルトラマンの帽子を作ってあげるからね」と言って帽子を作り、お子さんにかぶせます。お子さん大喜びです。

Sさん：「（紙鉄砲）、出来たかな」と言って、手の振り方を教えます。

バン！・・・出来ました。

Sさん：「おかあさん、お家でも遊んでくださいね」

おかあさん：「ハイ！ ありがとうございます」



初めてジックリ拝見し、またSさんとの談義から、“タントクルだがしや楽校”の持つ意味が見えてきました。

“タントクルだがしや楽校”では、昔から受け継がれている遊びを大切にしています。なぜなら、子どもたちが夢中になって遊んでいるからです。

“おはじき”に完全にはまってしまったお子さんがその例です。子どもたちだけでなく、若いおとうさん・おかあさんたちも夢中になって遊んでいました。

こんな楽しい遊びを絶やしてはなりません。実際に楽しく遊ぶことで、遊びは次の世代に引き継がれます。“タントクルだがしや楽校”は、遊びの伝承の場でもありました。

しかし、“タントクルだがしや楽校”は、単なる伝承の場ではありません。

子どもは、発想の天才です。いろいろなことを思い付きながら遊びます。その子どものアイデア・思い付き・発想を大切にしているのが“タントクルだがしや楽校”です。

“おはじき”でのお絵描きが、その例です。

それで、Sさんにはこだわりがあります。

Sさんは「私たちがここでやっていることがわからない人には、学んでから子どもたちと遊ぶことになります」と言います。それを聞いたもう1人のスタッフの方は「自然にやっているだけですけど・・・」と言います。しかし、これが出来ない大人が多くなっています。

ご年配の方は昔遊びをご存じです。しかし、「昔遊びを教えてください」と言いますと、「その通りに教えなければならない。子どもはその通りにおぼえなければならない」ということで、教えることだけに頭がまわってしまう人が、少なくありません。

しかし、遊びはひとつの手段であって、遊びを通して、子どもたちは成長するのです。地域の人とのつながりが生まれます。

Sさんが言う「学んでから・・・」とは、このことを指しています。

Sさんはさらに言います。それは、子どもたちと触れ合う時には、あるいは子どもたちと遊ぶ時には「手抜きをしない」ことです。例えば、“おはじき”では、はじき方を子どもたちに教えながらも、自分の番では手抜きしませんので、毎回勝ちます。だからこそ、子どもたちはさらにのめり込んでいくのです。

Sさんは「それが私たちのNPO活動」と続けて語りました。

『昔遊び=だがしや楽校』ではありません。

しかし、『昔遊び=創意工夫のない遊び』でもありません。

あらためて、決め付けの怖さを感じました。

“タントクルだがしや楽校”が終わろうとすると、「もう終わりなの」という声が飛び交います。「また来月しますので・・・」というSさん。

“タントクルだがしや楽校”は、山形県内でも数少ない『毎月欠かさず開かれる“だがしや楽校”』のひとつです。

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター